

第4回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日時 令和3年3月23日（火）午前10時～11時50分
- 2 場所 市役所本庁舎6階 6-3・4会議室
- 3 出席者 (1) 委員（Web会議1名）
柳委員長、福山副委員長、飯野委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
(2) 事務局
高橋企画推進部長、河井経営統轄、監渡邊政策企画課長、平田政策企画課課長補佐

4 内容

●委員長挨拶

今日は、市がまとめたアンケート調査結果を使い機能を絞り込むのが目標。非常にコンパクトにまとめていただいた。一つの特徴が「必要がある」と「必要がない」の対比。今日の議論が実りあるものになると期待。自由記載も議題になると思うのでよろしくお願いします。

●委員からの主な意見

- 委員 アンケートについて質問はないが、聞きたいのは市のスタンス。皆さん、希望されていることもしくは必要ないものを正直に素直に出されている。
- 委員 市のスタンスは市の基本計画がある。それに沿って活用するのか、それにとらわれず活用するのかという話。高齢者の回収率が高かったなのでその意見が大きく反映された結果。今日の目標は、機能を絞ること。自由意見を見ると、交通機能、市の財政負担を極力少なくして欲しい、利用者が限定されないことがトップ3である。それに対して防災機能となると利用できる人が限定され矛盾が出る。その辺の意見を皆さんからいただきたい。
- 委員 アンケートに関しては、よくわかる形でまとめてあった。
- 委員 アンケートについて特に意見はない。アンケート結果を見て面白い、正直だと思った。この中からセレクトするのは難しいので、段階的に、「これはない」というものを外すなど、絞らないとこれから計画段階までイメージがつかないと思っている。
- 委員 アンケートの結果は分かった。防災・減災機能が、1番必要性が高いとなっているが、考えた方がいいのが真のニーズ、ここに求めている価値感である。そこを掘り下げていかないと、防災・減災機能だから避難所というのは短絡的。どういう価値観を大事にすればいいかを吟味していく必要がある。
- 委員 今回のアンケートは大まかな方向性・機能を聞いている。重要なことは、ここにあがっている機能が、他の既存の施設を使って満たすことができるのかできないのか。また、市の総合計画、長期計画、公共施設の管理計画等との整合性を図りながら、今ある施設で満たせるものかどうか、そして30～40年後にも満たせるのかどうかといった、いくつかの軸を持ったうえで、その機能が鳥取市の中で必要かどうかという作業をした上でなければ簡単に評価できない。今回いろんな意見が出て、逆にこれを一つ一つ潰していけるかどうかという作業ができるとすごくいい。
- 委員 いろんな意見が出ていますが集約すると、「地域の活性化」を望む声がある。具体的にはアミューズメント、観光レジャー。「防災」が重要性という声も多い。「地域の活性化」と「防災」の2つの軸を考えたとき、どれも当てはまる。実現可能性がある機能に絞らなければ、絵にかいたもちになってしまう。市の財政は厳しく歳入が10年後10%減ってしまう。例えば民間と一緒に考える。もしくは、市独自でやるのであれば周辺地域も含める。「地域の活性化」と「防災」の2つのベクトル以外、何かあるか。

- 委員 様々な世代、人が気軽に集まる、憩いの場、会話を楽しめる、ゆっくり勉強する、くつろげる
とある。
- 委員 憩いの場も「地域活性化」に結びつく。
- 委員 地域づくりとか地域活性化とも重複するが、若者が県外から帰ってくる、若者定住など若者に
フォーカスした意見がある。企業ITなど若い人に注目した意見があった。
- 委員 大きな括りで分けると攻めと守り。守りでは防災・減災、医療福祉。攻めでは地域活性化、に
ぎわいづくり、娯楽・レジャー。
- 委員 娯楽・レジャーは、民間と行政が協働して今ある施設を活用していく方がいいのではないか。
若者の意見としては、定住、地域活性化の視点。
- 委員 今、12の機能がある。この中で単独の機能として「必要ない」という意見があったのが、交通
機能。自由意見で駐車場とあるが、何を作るにしても駐車場は必要。交通機能自体を1つの機
能ではなく、付加機能とすると交通機能は削除される。駐車場は副次的には必要。交通機能は
削除してもいい。そう考えたときに、学習機能と言ってもすべて削除ではなく、この部分だけ
は残せばいいという見方もできる。
- 委員 絞って交通整理していただくといい。既存の施設を活用するもの、必要なもの、過去にあった
ものがなくなったがやっぱり需要があるもの等、整理すればわかりやすい。
- 委員 具体的な話を進めたい。教育・学習機能の指数は1.2で「必要と思っている人が多い」という
ふうに絞っていききたい。
- 委員 絞り込むことは重要。市のスタンスに関わるが、例えば教育・学習機能のカルチャーセンター・
専門学校は市が施設をつくらない前提で、民間に問いかける手法はある。民間がやる、カルチ
ャーセンターだけではなく他の機能とプラスでいいという整理もある。民間でやるのかそれを
許すのかと考えれば、医療・福祉、健康増進機能もそうでありかなり整理される。今回のアン
ケートだと防災は残すが、防災はどの施設でも必ずつけるものであり、他の施設で対応できる。
レジャーの中の映画館・プラネタリウムも民間にお願いするなど、施設を作らない方法もある。
まず、防災がでた。私なら防災広場、キャンプ場を提案する。訓練としてのレジャー施設みた
いな位置付けで整理するとグランピングも検討できる。他の施設でまかなえる、民間に作っ
てもらうということで整理してもいいと思う。
- 委員 防災は機能として必要。駐車場は副次的に必要。民間活用した時、DBOにすると市の負担が増
える、PFIにすると民間は採算を考える。まとめると防災は外せない、施設・レジャーは民間
の知恵を活用したほうがいい。機能としては娯楽・レジャー施設機能、防災・減災機能は残る。
- 委員 大枠ではそうである。12の機能はすべて必要。駐車場について車が必要なのは大前提だが、中
心地の立派なスペースにあまりにももったいない。そこを上手く使って歩いてもらうべき。
- 委員 駐車場は少ないというコメントがあった。オープンスペース機能の指数は2.0。オープンス
ペース機能に防災、観光レジャーを付けたらどうなるか。ドライブインシアターもある。アンケ
ート調査を踏まえどう機能を絞り込んでいくか。
- 委員 防災・減災機能に関しては、ファーストリアクションとして私でもいりますと答える。どんな
ものを作るにしても、今の時代、防災・減災機能は、これから生活に絶対必要だという意識を
皆さんが根底に持っているのでそこにリアクションしたと理解している。どんな機能を持たせ
ても、鳥取市が考えている防災減災に関する計画の中で、この土地で補完できるものがあれば
ぜひやって欲しいという要求が出てきていると思う。建物を作らなければ減災防災は限られる
と思うが、鳥取市の計画の中でできることがあるのではないかと問いかけられている気がする。
この新庁舎も含めてその中で、さらに必要な機能がないかと捉えればいい。全体の機能のこ
とだが、「なくてもいい」は、「あったら困る」という意味ではない。機能を絞り込むというより
は、重要度の順番。来年度に向けて、活用策の話がされるが、具体的な活動策の中に、優先順

位の低いものも復活できるような形でもいいのかなと思う。アンケートで得られたマストの機能があるが、マストではない機能を必ずしも切り捨てる必要があるのかなと思う。

○委員 ビジネス機能は 0.4 だが、若者流出抑制、活性化を考えるとビジネス機能が必要ないという意味ではなく中身をどう考えるかが必要。1 から 12 の機能の中で周辺にあるかないかという話もある。中身を見て検討しないといけない機能がある。防災減災でも施設を作るのか、公園にするのかという意見、オープンスペースを作るというコメントもある。

○委員 意見が多すぎて混乱している。皆さんの話を聞いていると屋根でいいと思えてきた。何年か後に別の選択もできる。屋根だけでは建物がないと機能しないと整理すると考えが崩れてきた。アンケートは、テレビ・インターネット等で何かを見て回答していると思っている。全国で防災を兼ねたいろんな建物をイメージして進めていく方法もある。

○委員 北海道東川町は、まさに避難所として設置されている。改修し日本語学校として活用している。避難所として交付金が財政措置される。1年、生活しお金も落とし税収的にも潤う。

○委員 機能として、「鳥取を元気にしましょう」と「防災」。「防災」は検討しないといけない。鳥取を元気にして、若者が流出しないよう、活性化したいというのが意見としては1番多い。そう考えたときにビジネス機能も中身を考えたら必要だという人も多いと思う。観光、防災以外に残してもいいと思う、検討すべきだと思う機能はあるか。

○委員 ビジネス機能もあっていいと思う。ただ問題は公共施設として整備すべきかということ。活性化は最終的に民間がしないと話にならない。行政で建物を建て全部準備して、しかもそこでうまくいかなくて、負担が増えれば元も子もない。民間にできるだけ積極的に入ってもらい展開するのがいい。土地代を安くして建物、民間ホールだけという話是可以する。ショッピングモール等は作る必要はない。行政がやるのか民間がやるのか議論ができないと何とも言い難い。正直、民間に任せた方がいい。公共施設を建設するのであれば、喫緊の課題を解決するに必要なだという裏付けがないと納得できない。民間にお任せする、民間ができないのであればやらないというスタンスを持っておけば民間に提案してもらおうとか、プロポーザル、サウンディングという話につながる。機能を絞るのは、コアな機能を絞るということ。実践で追加や複合化はできる。コアが決まらないとサブが決まらないと思う。今、政策企画課が議論しているが、資産活用推進課と連携し市としてのスタンスがあれば議論しやすい。必要な機能はしっかり準備して、プラスアルファの機能について制限をかけない整理がいい。

○委員 実行可能性のあるものでなければいけないということ。そのためには民間の活力を使った方がいい。そうすると民間が参入してもらえ機能として、公民館コミュニティセンター、屋内スペースは民間はやらない。これをやるのであれば市。別の見方をすれば民間が参入するものと住民のニーズがマッチする機能で絞り込めるかなという気もする。

○委員 今日の議題はこのアンケート結果から最大五つの機能に絞り込むことなのですが、今回のアンケートで、市民が鳥取市の行政サービスにどういったものが欠けているか、どういったことを改善して欲しいかという生の声がダイレクトに伝わってきたと思う。そこで、今度は、市としての意見、例えば経費はできるだけかけないといった視点から見たときに、市民の意見とどこはマッチするがどこはマッチしないとか、マッチしないが民間と上手くやることによって機能分担ができる、あるいは民間に任せるというやり方もあるという整理をする必要がある。そのうえで将来のためには必要であり、民間ではできないので行政が責任を持ってやる、あるいは具体的な中身を絞り込んでいくというのが、もっとも合意形成を図りながらすすめる方法と思う。

○委員 財政等、市として制約条項はあるか。

■事務局 現在の考え方を話す。今年度は機能のある程度絞り込ませていただく。来年度、その機能で具体的な活用策を市民の方に意見を伺うスケジュールである。その中で、これは民間、これは行

政でできることと整理する。具体的に1番上の例だとカルチャーセンター・専門学校は民間という話が強く出てくるのであれば民間の方に例えば提案を求めてくるとか、娯楽レジャーは民間の方から提案を求めるという手法をとっていくことになると思う。逆に図書館は行政でやっていると、財政等も考慮し行政が考える。次の具体的な活用策を考える中で、一緒に条件、市の考えを出しながら進めたい。そのためにまずある程度機能を絞らないと間口が広がって議論が広がってしまう。ある程度、機能を絞っていただいた上で、必要なもの、必要な手法、民間、行政、財政等も話しながら具体的な活用策を絞り込んでいきたいと思っている。

○委員 民間の資金を活用するためには民間に提案してもらえないといけない。教育学習であればカルチャーセンターか専門学校かに絞らないと前に進まない。交通機能はそれ自体の機能はいらないとあった。活用策を絞り込んだ方が前に進む。

○委員 先ほど部長の説明で「絞る」と言われたが、まさにそうだと思う。アンケートの順番を専門家委員会が変わるわけにはいかないの、これを解釈して、その機能が確かに重要と再確認して、わかりやすい形で、専門家委員として返答する。絞ることは切ることではないので、絞る意味で重みづけをして、「この機能は極力実現したい」と。生活基盤充実機能は評価が低い、行政窓口は小さな窓口も多分作るだけで実現できれば、ビーバイシーは非常にある。付加的につくれるサービスは当然ある。コアな機能と付加的な機能があってもいい。実現可能性のことをイメージしてしまう。立ち返って、今は、活用策はおいて機能を議論しなければいけない。機能をまず考えて、それを実現するために民間活用等は次のステップまでおいてまいりましょうというイメージでやっていかないといけない。アンケートについて指数が1.0以上は残す。芸術・文化は指数が1.0だがここは歴史文化ゾーンなので残しておいて欲しい。それ以下は副次的な方に入る。

○委員 前に進めるために、機能全体をいらないとするのではなく、実現可能性を考えたときに、活用策を優先順位でピックアップして進めたい。

○委員 市のことをあまり知らないの、市としてどう考えているのかを聞いた方が整理しやすい。

○委員 市のスタンスを聞く。

■事務局 先ほど来、「防災」と「活性化」という話がある。市としてはやはり「地域の活性化」が1番である。この地域の計画として中心市街地活性化基本計画がある。その計画が元にはなるが歴史文化ゾーンになっている。地域としては歴史文化ゾーンというのが、市の考えである。ただその中には居住の観点も入っている。そうしたところではあるが、アンケートの結果で歴史文化ゾーンが1番低いと出ている。市の考えでは歴史文化ゾーンであるが、そこで判断が難しくなっているのかなと今は思っているところ。それでこうした12の機能でどれが要らないとかは、当然、市は持っておらず、みんな必要だろうと、それを聞きたくてアンケートをしている。一旦、機能に優先度をつけていただく方がいいのかなと思っている。絞り込むと同じではあるが優先度をつけていただければと思っている。

○委員 例えば、①の教育・学習機能。図書館は、こういう状況だから問題ないとか足りないとかそういう話が聞けると絞り込める。市として図書館は充実している等の話が聞ければと思う。

○委員 住民の方が知らなくて希望されているケース問題があるかも知れない。病院は横に日赤病院があるので医療・福祉機能はどうかと。そういう周辺のデータをいただければ、少し絞り込んでいけると思う。

■事務局 以前、鳥取市の強み弱みを示した。例えば、先ほど図書館の意見があった。他都市との比較対照指標で図書館は、人口当たりの蔵書数3.6冊で、比較した都市の中では6位で、ほぼ真ん中あたりに位置する。その他、スポーツ施設数は79ヶ所で1位であり、かなり充実していると言える。観光客数も2位、人口密度も4位、高齢者保健福祉関連施設も4位で、このあたりが鳥

取市の場合には強いと考えている。一方で、例えば、卸売業年間商品販売額は15位、商業地地価は15位、医師の数は12位で、このあたりは弱いといえる。

○委員 鳥取市の特徴は、観光文化スポーツ、福祉機能が充実しているが商業の観点が弱い。アンケートに的確に表れているのは若者流出、商業地、活性化したいというニーズがけっこう多い。機能の中の活用策の一例についてデータとしてもらっていただければ具体化できると思う。

■事務局 これも以前、話をしたが、市民の皆様との意見交換でいただいた意見の中で、様々な機能と一緒に活用策の一例を出させていただいている。代表的な活用策なので一例になるが、ここにこだわるものなのかどうなのかというのが少しある。例えば、教育・学習機能の一例でカルチャーセンター、専門学校、図書館等としている。高校生や大学生が自主学習したい、勉強したい、そういうときに集まるセンターが欲しいという意見があった。また、生涯学習の受け皿となる施設というご意見があったものをカルチャーセンターと表現している。例えば、環境大学や鳥取大学が講義をする施設という意見があった。それをまとめて、教育・学習機能としている。市民の方が集まって勉強できる場所、ある意味コミュニティの施設としても複合的にはできるのではないかと、そういったことも考えられる。この機能を1個1個することもあるが、まとめる考え方もできる。以前の膨大な調査資料の一つで、市の説明が全部できていないところもあるが、そういうことも含めて検討いただければと思っている。

○委員 今のはすごく重要な話だが実は絞りにくい。例えば教育・学習機能は必要。憩いの場・コミュニティ機能と統合できる可能性がある。コミュニティ機能は他の機能とも統合できる。ある意味、どの機能に対してもメインではなくサブでくっつけることができる。先ほど強み・弱みの話があった。強みを伸ばすのか弱みをボトムアップするのかわ変わる。その整理をこの会ではなく市でしていただかないとなかなか進まない。アンケートで防災・減災機能はメインにする。メインにすると言っても防災・減災機能は不可欠なもの。メインは1つでいいと思っている。逆に言うとそれにどんどん付け加えていけばいいと思っている。最低限必要がない交通機能はいらぬということであればいらぬ。病院は隣にあるので減らすということもある。市全体のバランス、地域のバランス、周辺地の関係とかある。この地域には必要だがこの地域には必要ないものもある。市のスタンス、強みを伸ばすのか弱みをボトムアップするのかがある。市民に一つ示すのか、三つ示して議論するのか今後はどうするのか。

○委員 機能を絞り込むのがマストか。例えば、財政に負担かからない教育施設を作り、あとは公園にして動向を見ながら価値を考える方法もある。絶対にこれを作るという考え方もあるが今の段階では、この機能が必要ですというだけ。民間にするのか市がやるのかも。残りはオープンスペースにして、必要に応じてイベントを開設できるような、そういう活性化を図る方法もあると思う。遊休土地にするのはいけないので縛り込んでやるのか。利用できるオープンスペース、公園にする。何年かかけて動向を見ながら活用するか。二者択一ではないがその他活用方法があれば話していただきたい。

○委員 軸があれば整理して進めやすい。すごい難しいがすごい重要なところ。

○委員 冒頭で申し上げたアンケート調査の中から見える価値感を考えていた。当初、市が示した目指すべきまちづくりが、市としてのビジョン、姿と状態だと思う。市の状態と新しいものもしてきたとしたらこういう状態を望んでいるというものが多分あるんだと思う。重なっているところ、重なっていないところを整理した上で機能整理をした方がいいのではないかと。跡地を活用して何か新しいものを建てるかそれとも何もしないのか、その変化を期待するのかを考えていかないと選択する判断が難しい。

○委員 スケジュールの問題もあるが、市は長期計画の中で将来の方向性を出している。それはデータやコンテンツに基づいたものである。しかし、今回のアンケート結果では、住民はそうではないものも望んでおり我々としてどうするかが問われている。重要なのは、違いが出たときにど

う対応するかである。住民の意見と市の考えとの違いはどこに原因があるのか、あるいは住民の皆さんはこういう要望を出しているが市の将来を考えたときにはこういう根拠から市としてはこういう方がいいと思うということをつき合わせる必要があると思う。住民の皆さんは、持っている情報が非常に限られている。限られた情報の中から判断しているので、広い情報の中からもう1回考えてみましょうと往復運動をした方がいいと思っている。その結果、市が目指す方向に将来があるなら、むしろ住民のアンケートと違う形の選択があってもいいと思っている。今日の会議で無理に絞り込みの結論を出すのはどうかと思っている。専門家委員で集まっているわけだから、住民の意見、行政の意見をトータルで比較検討した時に、専門家として、こういう方向に行った方が望ましいということを求められているのが我々。そのためには、今これだけでは情報が不足している。

○委員 次のステップを見たとき、活用策について、ワークショップ、アンケートの想定がある。活用策は、カルチャーセンター、図書館、プラネタリウムは誰が言うのか、我々か、市長か。この委員会のスタンスだが、出てきたものに対して、都市計画という専門的な立場からこれはいらないという話はできるが、どこから出てきて、それに対して我々が意見を言うことになるのかわからない。これからのプロセスも含めて。今どの活用策がいいですかって聞かれているような気がする。それに対していろんな情報がないので答えるのが難しい。アンケート結果だけから判断するという状況になっている。その辺、補足していただければと思う。

■事務局 活用策は、どういった形で出てくるかということだが、市が考えているのが来年度、住民の方のワークショップなどで意見をいただいた上で、具体的な活用策を提示させていただきたいということである。そのために、今年度の機能の中では12も出ているので、いきなり来年度12の機能で活用策は何にしましょうかと伺っても、なかなか絞り込みができないことがあるだろうと思う。12の機能の中でいくつか絞り込んだ上で、その機能を実現する、満たすためにどういう活用策がいいのかということ、意見交換をしながら絞り込んで、それで、活用策の案をお示しするというのをこちらのスケジュールでは考えているところ。

○委員 先ほどで飯野先生が非常に大事なことを言われた。このアンケート結果をもう一度、住民の方が十分な情報を持っていないので、アンケート結果を住民にフィードバックすればという話もあったと思う。

○委員 資産活用推進課が、機能・設置等の管理をされているので一度しっかり話し合っ、市としてこういうのが必要ではない、もしくはこういうものが望ましいということ整理して、住民と違うところがなぜ違うかも整理して、市民に返すことも重要だし、専門家委員会で共有して議論することも重要。正解がない中で、選定するのは根拠・データを抑えるしかない。あとは好き嫌いになってしまう。そういった整理を1個1個することだと思っているし、この会の中で必要ないという議論もできる。情報が足りないのをそれをやり取りしながら全体の方向を決めていく話だと思う。無理に使わなくてもいい。例えば、何もなければ公園、民が集える場所、防災施設にする。もし、何か施設を作るのであれば、財政的に厳しい鳥取市ではなく、民間が作って許可するでもいいし、市として必要なものは作るという話。市として作る必要があるけど表に出さないのであれば、必要か必要ではないかを部外者が決めるのは難しい。

○委員 今日5つに絞るのがなかなか難しいという意見が出ている。施設がたくさんあり鳥取の強みを住民に知ってもらったらい。直感的に思うのは誰が見ても鳥取市が活性化してほしい。人口も減っている実情を考えたとき、そこに作るべきものが見えてくる。個人的にはビジネス等、若者が集う価値のあるところをしたいのが総論。ここからなかなか前へ進まなくなった。もう一度住民の方に十分な情報を提供して絞り込むのはどうか。スピード感がないか。市としてそういうスケジュールでも大丈夫か。1:38:25

■事務局 昨年5月、初めてこの会議を開いたとき、令和3年度にもう一度、市民の皆様意見伺う場

面を作るという想定をしている。ただ、その場合の想定は、ある程度、機能を絞り込んだ中で、その機能を十分に活用できる方法、活性化策を作るための次の段階の話を考えているところ。来年度中には一定の方向性を示すので、何とか次のステップの議論を市民の皆さんとさせていただきたいのが正直なところ。何とも申し上げにくいところもあるが、具体的活性化策について議論ができるよう、次は、市民の皆様の話し合いたいと思っているところ。

○委員 市のスタンスを明確にして欲しいという話があった。市と調整をしてアンケート結果を踏まえ複合的な活用策を考える。市と委員長、副委員長で絞り込んでもう一度、委員の方の意見を聞くというのはどうか。今日5つに絞り込むのは、多分難しい。市のスタンスを考えて、協同・ミーティングを少人数でやり絞り込んで委員の方の意見を聞いてみる。委員の方に資料を示し聞いてみるということでない市スケジュール感と合わないと思う。

○委員 委員長に任せる。特に必要をなくてもいいで除した指数が唯一の分析であり、これをうまく使えばいいと思う。防災については意見が多いので採用する。次のオープンスペースも入れる。健康増進、医療は、例えば隣に病院があるからなくしてと、整理していった方が早い。ありとあらゆる機能があった方がいいのは間違いない。例えばオープンスペースが隣にあるのであればいいという整理をすればいいと思っている。

○委員 少人数で絞り込んで委員の意見を聞くということでしょうか。

○委員 よろしく願います。

○委員 それでよい。

○委員 私にできることがあれば、それでよい。

○委員 市として、ここで決めてほしいということでもなくともいいか。

■事務局 今の委員長提案の通りにする。

○委員 もう一度、少人数で絞り込んだあと、委員みなさまの意見を聞いて方向づけをしたいということでもよろしいか。

4 その他

■事務局 第5回専門家委員会日程については、この後の委員長協議を踏まえ調整をしたい。

○委員 他に意見があれば受ける。

○委員 今回は機能で整理するというので、建物で整理していないのがとてもいい。施設は整備できなくても機能は整備できる。逆に整理しづらくなっている。委員長に任せる。

○委員 今回はセレクト、絞れなかったが、アンケート自体はすごい貴重な意見が多い。アンケートについて、跡地活用専門家委員とは離れるが意見としては宝の山だと思う。この跡地活用待たなくても、もしかしたら今すぐできることもある。高齢者のフリーマーケット。学生の自習室は会議室を開放。私もカフェでノマドワークをやるが、コンセントがあればパソコンを持って行き仕事ができる。これを待たなくてもいくらでもできる意見がいっぱいあるので、すぐできそうだなと思うのがあればやってみて欲しいと思った。

○委員 実現可能性できるものを優先的という話もあるので、それも十分踏まえて絞り込む。

○委員 住民ニーズとしていろんな情報が集まっているので、その中で、やはり新しい投資をしないと実現できないもの既存の施設でできるものを整理する。

■事務局 長時間の意見交換ありがとうございました。資料2は議論と合致するので見ておいてほしい。翌年度もよろしく願います。